

一人一人が安心して生活できる空間づくりについて

不登校生徒の状況

対象生徒は中学校 1 年生であり、周りの刺激に敏感で、内向的性格であるため教室になじめず、5 月頃から欠席が目立つようになってきた。静かな環境で自分のペースで学べる校内別室を知り、週 1、2 日午前中に登校し、支援員と関わりながら、読書や学習をしている。校外学習や防災訓練にも参加することができた。

具体的な取組

○他の生徒と別の玄関・靴箱の確保～安心して登校できるための取組～

不登校生徒が他の生徒に会わないようにするための配慮から、非常口を登校する際の玄関にしている。また、非常口のすぐ近くに靴箱を設置している。



○パーソナルスペースの確保～安心して学習できるための取組～

一人一人の生徒が周りの視線を気にすることなく学習に取り組めるよう、カーテンやパーティションで室内を仕切ることができるようにしている。



○多様な学習スタイルの確保～自分のペースで学習するための取組～

教科書、問題集、一人 1 台端末を活用した学習、一人 1 台端末によるオンライン授業への参加、読書など、生徒一人一人が自分で取り組むことを決めて取り組んでいる。支援員は、自分で決めたことを最後までやり遂げられるように、学習指導などを通して支援している。

○校内別室指導支援員の確保～生徒に応じた登校ができるための取組～

生徒の登校時間を柔軟に設定して、それぞれの生徒の状況に対応するため、午前だけでなく午後も支援員を配置した。支援員は、地域住民、青少年対策地区協議会委員、退職教員、本校卒業生などであり、地域の多様な人材を活用している。

成果

7 月末現在の本校の不登校出現率は 6.79%であり、東京都の 7.80%より 1.01 ポイント下回っている。

昨年度に引き続き、外部機関とも密な連携を行っており、学校内外で相談・指導を受けていない生徒は 0 人である。

課題

支援員が毎日変わるため、支援員同士の連携を図ることや、別室の利用について、支援員と連絡、調整する担当教員の業務負担の軽減など、校内体制の整備をすることが必要である。

校内別室について

不登校児童の状況

対象児童は、夏休み中の家庭環境の変化により夏休み明けから登校が難しくなった。学習意欲はあるが、毎日、校内別室に登校し、学習することは難しい。学級の友達との交流を著しく拒むことはないが意欲的でもないが、教職員とのやり取りはできる。

具体的な取組

○組織力の向上

不登校支援会議を月 1 回行うとともに、必要に応じて随時実施することで、校内別室指導支援員だけでなく、管理職、学級担任、生活指導主任、養護教諭、特別支援コーディネーター等で共通理解を図り、ケースに応じて保護者との面談や当該児童への支援を臨機応変に行うことができた。

○実践の成果等についての普及・啓発

学校運営協議会で年間を通じた取組や進捗状況を紹介した。

生活指導主任会において市内全校に向けて取組を紹介した。

学校ホームページを活用し、取組を紹介した。

○校内体制の強化

校内別室指導支援員が毎回記録を取り個別の支援ファイルを作成し、特別支援コーディネーター、SC、SSW、学級担任等で、当該児童の情報を共有するとともに、週 1 回、管理職が確認することで、きめ細かな指導・支援を行うことができた。

○個々の不登校生徒への支援

教室復帰を目的とする児童、居場所機能として活用している児童、長期欠席から登校自体を試みている児童の個々のケースにおいて ICT 機器や AI 教材等を随時、活用している。



成果

昨年度に続き一日も登校しない児童はいなかった。児童によっては教室に継続的に通えなくても運動会や音楽発表会等の行事には参加することができた。校内別室指導支援員と学級担任の連携を密にして、校内での支援体制を強化することができた。

課題

個に応じた具体的な校内別室の利用目標の設定や、6年生児童の進学に向けた中学校との連携が課題である。

校内別室について

不登校児童の状況

対象生徒は、小学校3年生の頃から欠席が目立ち、不登校になる。当該児童、保護者ともに学校に「行きたい」「行かせたい」という思いは強かったが、朝起きるとどうしても学校に足が向かないという日が続いた。4年生になり、別室に行くことができるようになる。校内別室で、自分のペースで過ごすことができると、少し教室に行く時間も出てきた。

具体的な取組

○定期的な情報交換と実態把握

毎月1回、情報交換会を実施し、各学年と担当教諭、支援員、管理職と情報交換を行っている。

毎朝、配慮を要する児童がいる担任とは打合せをして、一日の予定を確認している。

担当教諭と指導支援員が翌日のことについて、情報を交換している。

○保護者との連携

送りや迎えに来た保護者と、今日の予定や前日の様子について報告し、当該児童の様子を共有している。

関係機関の紹介や橋渡しを行い、児童をより良い生活に向けた話し合いを継続している。

○衛生的な別室環境の整備

1年生から6年生までの児童が気持ち良く生活するために、整理整頓と清掃に力を入れている。

空いている時間に、学習用具や道具の整理を5・6年生が率先的に行っている。

○別室での児童の実態に応じた学習指導の実施

各学年の教科指導を別室利用の児童の実態に応じて実施している。

5年生の算数を18時間実施した。

1、2年生の国語や算数を児童の実態に応じて指導した。



成果

- ・利用する児童が、教室に復帰し、毎月減少している。9月は延べ141人、10月は131人、11月は87人だった。
- ・保護者との報告・連絡・相談が常にできている。
- ・担当教諭と指導支援員の連携が取れ、スムーズな別室支援ができている。

課題

- ・別室利用児童と支援員の信頼関係の更なる構築
- ・別室において、温かさと厳しさのバランスのある支援
- ・不登校児童一人一人に応じた対応